

Diving Statement Form

ダイビングツアー参加申込書

パーソナルデータ

参加日程 _____ / _____ ~ _____ / _____

氏名 (漢字) _____ (英文) _____

生年月日 19 年 月 日 年齢 _____ 歳 血液型 _____ 型

郵便番号 〒 _____

現住所 _____ 都・道・府・県 _____

自宅TEL () _____ 携帯TEL () _____

勤務先名 _____ 勤務先TEL () _____

緊急連絡先名 _____ 続柄: _____ 緊急TEL () _____

eメールアドレス 自宅・携帯・会社 _____

希望レンタルギア

ウェイト (kg) レギュレーター B.C.D. ウェットスーツ
 3点セット 水中スクーター 水中カメラ 水中ビデオ
 デジタルカメラ その他 エンリッチド・エア 認定書No _____

タンク・ウェイト以外のレンタルギアをご希望のお客様は、下記にもご記入ください。

身長 _____ cm 体重 _____ kg 足のサイズ _____ cm 視力 L _____ R _____

ダイビング経験

認定団体 PADI NAUI BSAC SSI NASDS その他
認定ランク Scuba Diver Open Water Advanced Rescue DM Inst.
C-card No. _____ 経験本数 _____ 本
初回認定日より _____ 年 _____ 月 _____ 日 最終ダイブ日 20 _____ 年 _____ 月 _____ 日

一般高圧ガス保安規則「第39条」高圧ガスの取り扱い方法(圧縮空気及びナイトロックス)の周知文書

- スクーバダイビングで一般的に使用される高圧ガスは「圧縮空気」と人工的に酸素濃度を高めた「ナイトロックス」と呼ばれるガスがあります。ナイトロックスを使用する場合は圧縮空気とは別の専用の器材を使用する必要があります。また、ナイトロックス用器材と圧縮空気用器材を互換しないようにして下さい。製造元が両方に使用できるとしているものもあります。詳しくは販売店や製造元にご確認下さい。
- 圧縮空気の特徴は、おおそ酸素21%、窒素78%、アルゴンなどその他のガス1%からできています。空気自体は燃えませんが支那性ガスですから火気を燃え続けさせます。空気中の窒素はダイビング中に体内に溶け込み減圧症と呼ばれる潜水病を引き起こす原因となります。深度が深くなると呼吸中の窒素が「窒素酔い」と呼ばれる障害を引き起こすことがあります。
- ナイトロックスの特徴は、圧縮空気よりも人工的に酸素濃度を高めたガスで一般的には酸素濃度32%と36%の二つの種類が使用されています。また窒素が少ない分減圧症や窒素酔いの可能性を低減できます。圧縮空気と比較して酸素濃度が高いためゴミや油脂分が発火する可能性が高くなります。また酸素中毒の可能性が高まります。
- レギュレーターの定期メンテナンスや点検の期限が過ぎていないこと。タンクの検査期限が過ぎていないこと。タンクに異常な錆などが発生していないこと。器材を組立てる時に器材同士の接続部に髪の毛やチリなどを挟まないように注意すること。タンクバルブが軽く操作できること。呼吸ガスの漏れがないこと。レギュレーター及びバックアップ空気源が正常に作動すること。タンクに十分な圧力の呼吸用ガスが充填されていること。浮力調整具、ドライスーツ、残圧計が正常に作動し漏れがないことをダイビング前に確認し遵守して下さい。
- ダイビング中に呼吸ガスの漏れ、器材の操作バルブの不調などを発見したらダイビングを中止して直ちに浮上し、専門家による点検を受けてください。
- ダイビング後はタンク内のガスを完全に空にせず内圧を残しておくこと。全ての器材は使用後に清水で洗い陰干しを行うこと。
- スクーバ器材を炎天下に放置しないで下さい。特にタンクは放置すると内部の圧力が上がり危険です。温度は常に40℃以下に保つよう定められており、直射日光などを防ぐため、上にシートをかけるなどの対策を講じて下さい。万一温度が40℃を超えそうな場合には水をかけるなど温度を下げる措置を講じてください。
- 器材に衝撃などを受けないよう置き場所に注意しタンクバルブやレギュレーターなどは衝撃に弱いため特に注意が必要です。
- タンクを運搬する際、衝撃に弱いバルブの部分を保護して下さい。車両にての運搬の際は「高圧ガス」の表示を付けに崩れを起こさぬ様に固定し、バルブを進行方向に向けられない様に積載して下さい。上記の他に都道府県によっては条例がある場合があります。詳しくは各都道府県にお問い合わせ下さい。
- ダイビング器材を火気の近くで使用しないで下さい。ナイトロックスの場合は厳禁です。ダイビング器材近くでの喫煙もしないで下さい。万一発火などの事態が生じた場合、直ちに地域のダイビング事業者に連絡して下さい。近くで火災が発生した場合直ちにスクーバセットを火災現場から遠ざけて下さい。器材の移動が困難な場合は水などをかけタンクが高温になるのを防ぐ措置を講じて下さい。万一危険と感じる場合は周囲にも呼び掛けの上で現場から至急避難して下さい。
- タンクバルブ、レギュレーター、残圧計、浮力調整具やドライスーツなどのバルブは自分で分解しないで下さい。またメーカーが許容する範囲を超えて勝手に改造しないで下さい。タンク以外のダイビング器材をナイトロックスに転用する場合、必ずメーカーや指定の専門会社によるメンテナンスが必要です。
- 呼吸用ガスの漏れを発見した場合は直ちに使用を中止し専門家による点検を受けてください。またそれがダイビング中なら直ちにダイビングを中止します。
- ダイビングの環境に応じた講習を受講し認定証の発行を受けてください。ナイトロックスを使用する場合ナイトロックスの講習が必要です。そしてダイビング前に酸素濃度が正しい範囲かご自身で確認しなければなりません。もし許容濃度を越える場合はそれに合わせて計画を立て直すか、許容範囲内のタンクに替えてからダイビングを行ってください。
- 初めての地域や環境でダイビングする場合、十分な情報を得てからダイビングを行ってください。減圧不要限界ギリギリでのダイビングは避け、余裕のあるダイビング計画を立て、計画通りに実施します。

私は上記の「一般高圧ガス保安規則「第39条」高圧ガスの取り扱い方法」を熟読し、内容を完全に理解いたしました。

署名 _____

年 月 日